

第46回フローインジェクション分析講演会報告

高知大農・受田浩之

本講演会は平成17年10月7日(金)に高知会館(高知市本町)で開催された。参加者は60名、会場の関係でポスター発表なしの、すべて口頭発表とさせて頂いた。当初、口頭発表だけで演題が集まるかどうか心配したが、締め切り間近には、申し込み予定数をオーバーして、お断りしなければならぬ状態になった。最終的には一般講演が18演題、招待講演として、手嶋紀雄先生(愛知工業大)、Marek Trojanowicz先生(ワルシャワ大学・ポーランド)、並びに久本秀明先生(兵庫県立大)の3人の先生をお招きした。

講演会は午前9時前から、主催者として受田(高知大農)の挨拶で開幕し、一般講演7演題の発表の後、手嶋先生から「呼気分析における流れ分析技術の可能性」と題して、呼気アセトンを簡便かつ迅速に計測する分析システムについてご講演頂いた。ご自身が被験者になり、試作されたシステムが実際の臨床現場で十分に適用可能なシステムであることを示された。続いて、Trojanowicz先生から「Electroanalytical Flow Measurements-Flow Injection Methods, HPLC and Capillary Electrophoresis」と題してご講演頂いた。先生は岡山大学・本水先生の研究室に滞在されていたことから、高知までお越し頂いた。いつもながら、エネルギーなご講演で、ポルタンメトリー、アンペロメトリー検出に基づくFIA, HPLC及びキャピラリー電気泳動法について最先端の研究の成果をご紹介頂いた。



ディスカッション中のTrojanowicz先生

午後は久本先生の「キャピラリーアセンブルド・マイクロチップ:化学修飾角型キャピラリーと格子状PDM Sチャンネルチップを組み合わせたマイクロフローシステムの開発」と題する招待講演を挟み、一般講演11件の発表があった。



講演会風景

マイクロフローを精密に制御するシステムの開発は今後のFIA研究の新しい方向性を示唆する感動的な内容であった。

一般講演終了後、2005年度のフローインジェクション分析学術賞の授賞式が執り行われた。まず2003年度の創立20周年記念FIA学術賞を受賞されたTrojanowicz先生に記念のメダルが授与された。メリダやラスベガスにご出席になられていなかったことで、2年越しの授与式となった。2005年度のフローインジェクション分析学術賞が岡山大学大学院・本水昌二先生(業績「フローインジェクション分析法を用いる微量化学分析」)に贈られた。なお同じく学術賞を受賞された山梨大学大学院・木羽先生(業績「固定化酵素を用いる化学発光検出フローインジェクション分析法の高感度化、高機能化に関する研究」)はご欠席であった。また、フローインジェクション分析技術開発賞は(株)ダイアインストルメンツ・島川勝之氏と(株)HME・服部一彌氏(業績「フローインジェクション分析分析法を採用した自動分析装置の開発」)に贈られた。



授賞式の風景

講演会と同じ会場で開催された懇親会は本研究懇談会委員長の愛知工業大学・酒井忠雄先生のご挨拶、千葉大学・小熊先生の乾杯のご発声で賑々しく開宴された。各受賞者のスピーチの後、新事務局のサプライズ企画として、これまで長きにわたり、事務局を務めてこられた岡山大島先生、高柳先生に感謝状が贈呈された。実行委員会からのサプライズとして、今回は高知大学奇術部員によるジャグリングと手品が披露された。ハトを目の前で出す奇術は参加された皆様から、喝采を浴びていた。懇親会の最後は、恒例にありつつあるビンゴゲームで高知の特産品を競って頂き、最後に来年度の講演会の開催を務められることになった大阪府立大学の八尾先生にご挨拶頂いた。企画が盛りだくさんで、2時間の懇親会を短く感じられた方が多かったようである。

今回、高知での初めての開催をお引き受けし、マンパワーや財政的な不足から十分なおもてなしができるかどうか不安であったが、広告掲載や展示会に多くの企業の方にご協力頂いたこと、また分析化学会中国四国支部から協賛を頂いたことで重責を全うすることができました。紙面をお借りしまして、ご協力頂きました皆様に心から御礼申し上げます。